
四方稀記～the cross world～

幕 慎一郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四方稀記 the cross world

【Nコード】

N5306F

【作者名】

幕 慎一郎

【あらすじ】

突然、全く知らない世界で生きることになったグエル。4つの国を旅し、やがてこの世界の真実を知ることとなる・・・

一話 グエルの丘

PROLOGUE

気づいたら深い霧の中にいて、必死であたりを見回していた。

何故？此処はいつたい・・・

身に覚えのない光景に、僕は不信と焦燥を覚えた。

霧が少し薄くなり、あたり一面が黄色い事に気がついた。地面は草花に覆われている。

ひんやりとした空気が頬を撫でた。甘い匂いが漂い、焦りはどこかに消えた。

不思議な場所だ。途方もなく広い気がする。この丘は、どこなんだろう・・・

そして、少し冷静になると自分が誰なのか分からないことに気づいた。今まで生きていたという実感はある。しかし、どこでどうやって暮らしていたのか全く思いだせなかった。

「・・・あれは、タンポポ？」

僕は、黄色い世界から逃れるように眠りから覚めた。だけど、相変わらず僕の知らない世界は続いていた。メープルウッドの天井が見える。視線をずらし、窓の先を眺めると、ヨーロッパ調の建物が並んでいた。青空に響く市場の人々の声が聞こえる。

視線を天井に戻す。

僕は、どうしてしまったんだ。見知らぬ部屋のベッドで一人寝ている自分。見知らぬ天井、見たこともない景色、着たことのない寝巻き。

ドアをノックする音がする。

「入ってもいいかな？」

「・・・どうぞ。」

入ってきたのは初老の男性だった。やはり、知らない人間だ。

「あなたは、誰ですか？」

「わしの名前はミケロ。ほら、コーヒーでも飲んでまずは目を覚ますといい。話はそれからでも遅くはないよ。」

「ありがとうございます。」

言われるがままに熱いコーヒーを口にした。コーヒーの味など感じず、ただ熱い液体を体に流しているようだった。周りに起きている全てのことを理解するまでコーヒーの味など感じている暇はなかった。コーヒーを飲み終え、会釈をしてカップを返すと、ミケロは微笑み返した。

「さて、落ち着いたところで、先ず君の名前を教えて欲しい。名前がわからなければ呼ぶこともできんな。」

「名前・・・思い出せないんです。自分の名前どころか、今までどこで生きていたのかも。」

「なんと、それは困ったな。では、なぜグエルの丘にいたのか聞いても無駄だね?。」

「はい。グエルの丘って、もしかして一面タンポポで覆われている場所ですか?」

「いやいや。グエルの丘はな、過去の戦争の被害で一面荒野になるとる。わしはこう見えて歴史学者でね。偶然グエルの丘を調査に行っていたんだよ。」

「そうなんですか。」

「そしたら、君が倒れていた、というわけだ。霧が深くて植物も無い。あそこは灰色の丘と言われていてな。一般人はまず立ち入ることのない場所なんだよ。そんな場所に子供が倒れているんだ、驚いたよ。」

「あの、ありがとうございます。助けてい頂いて。」

「構わんよ。独り身だしな、金もある。あてが見つかるまでここにいるといい。」

不幸中の幸いか。ミケロという老人は気の良さそうな人だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5306f/>

四方稀記～the cross world～

2010年11月27日06時31分発行